

第6章 学生・就職支援

6-1 情報教育センター

達成目標

社会での活躍を期待し、情報教育を中心に倫理観・道徳観を育み、適切な情報管理能力を身につけさせる。

目標

情報教育センター開講科目の情報教育基礎科目の出席者数に対する単位取得者数を増加させる。

現状説明

非常勤講師の方々を含めた情報教育説明会等を通じて、同一科目での講義担当者同士が授業に関する様々な情報交換を行い、一例として、小テストや期末テストの問題を検討し、調整するなど、FD活動の一環で授業改善を図り、単位取得率の向上を目指している。

また、実習の中でビジネスレターや報告書の書き方など、社会人としての文書作成や一般常識を教育しながら、情報を取り扱う者としての倫理観・道徳観を育み、適切な情報管理能力を身につけるように、組織的に努力をしている。特に、受講者が多いシステム入門（A、B）とプログラミング科目を対象とする単位取得者数と講義出席者数に対する単位取得率を増やすように組織的に対応する事で目的の実現を図っている。

点検・評価**<行動計画内容の実現度> S**

当該目標の達成度を示す指標としての単位取得者数は、2009年度の春学期 779名（85.3%）、秋学期 819名（82.3%）、2010年度の春学期 848名（83.9%）、秋学期 1030名（87.4%）、2011年度の春学期 1677名（84.2%）と増加傾向にあり、計画通りに行動目標を達成している。従って、行動目標の達成度は「S」と自己評価している。

<成果と認められる事項>

特になし。

<改善すべき事項>

特になし。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

特になし。

<改善方策>

特になし。

6-2 教学部

達成目標（1）

退学者・長期滞留者を半減させるために、学生支援システムを活用して原因の分析を行い、必要に応じて学生の勉強面及び生活面のケア（学修上の指導や、奨学金の拡充による生活面のケア等）を行う体制を構築する。

目 標

行動計画内容（a）：各校舎の教学課等を中心に、学部学科と連携し、就学不適應者をサポートする。

行動計画内容（b）：学生支援システムと出席情報システムの連携。

行動計画内容（c）：各校舎の教学課などを中心に、奨学金拡充に向けたシミュレーションを行なう。

行動計画内容（d）：退学者理由の分析。

現状説明**行動計画内容（a） 具体的取り組み**

GPA 数値と修得単位数などの指標を集約し、さらに効果確認のために追跡調査を実施した。

行動計画内容（b） 具体的取り組み

学生支援システムと出席情報システム・出席収集システムが連動したシステムを構築した。

行動計画内容（c） 具体的取り組み

現在の奨学金利用状況を確認及び分析を行い、奨学金制度の再構築を実施し、新たな支援策を提案した。

行動計画内容（d） 具体的取り組み

過去の退学理由データ集積及び分析を行うとともに、退学者数及びその理由等を常務理事会等に報告した。

点検・評価**<行動計画内容（a）の実現度> B**

各校舎毎に集めた指標データに基づき、現状把握及び指導上の問題点の検討を行い、今後の新学修指導体制を検討する。

<行動計画内容（b）の実現度> S

本年度6月より本格稼働した。出席情報集積率は、学科単位では、ほぼ全ての学科で科目数に差はあるが始まった。

<行動計画内容（c）の実現度> A

奨学金制度の再構築の一環として、信販会社との間で提携教育ローンを締結し、店頭金利よりも優遇された条件で教育ローンを新たに追加した。

<行動計画内容（d）の実現度> B

年度別（過去5年間）セメスター別に退学及び除籍者数一覧表及びその理由別一覧表を作成し、現状分析とともに学部長会議に報告すべく、継続して検討する。

<成果と認められる事項>

退学理由のデータ化により、全体的傾向及び社会的状況と退学理由に相関があることが判明した。

学生情報専門部会にて、出席情報を簡便に収集できる収集システムの仕組みを検討し、実現した。

<改善すべき事項>

校舎ごとで支援体制が異なるため、関係部署との連携が必要である。

学部学科間の格差があることから、その差を解消しながら、検討する必要性がある。

経済的理由で大学を去る学生に対しての奨学金希望の有無等の調査・分析を実施する。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

退学・除籍のデータを定期的に、学部長会議、大学院運営委員会に報告し、情報を共有するとともに、初年次教育からの学生指導の徹底化を各学科に啓発する。

<改善方策>

各校舎の学生サポート組織体制及び関係部署との連携体制を検証のうえ改善するとともに学部間格差を解消するため、学生指導対象者の相談結果を学生支援システムに反映させるよう、各種会議を通じて啓発する。

達成目標（2）

キャリア教育を充実させ、インターンシップの単位化を進めるとともに、企業等の見学の機会をより多く設ける。

目 標

行動計画内容（a）：カリキュラムへの展開。

行動計画内容（b）：インターンシップなど体験型学修の授業科目への展開。

行動計画内容（c）：キャリア教育のカリキュラムへの導入推進。

現状説明**行動計画内容（a） 具体的取り組み**

履修人数の推移及び分析を実施し、開講コマ数の適正化及び適正コマ数に見合う担当教員数を確保した。

行動計画内容（b） 具体的取り組み

インターンシップ科目の調査を行った。

行動計画内容（c） 具体的取り組み

現在のキャリア科目の調査及び検証を行い、学科でのキャリア教育と大学としてのキャリア教育を明確化するとともに、カリキュラム編成時のガイドラインを作成した。

点検・評価**<行動計画内容（a）の実現度> S**

カリキュラムの科目区分Vに4科目設定した。春学期2科目8クラス及び秋学期2科目4クラスの年間2科目16クラスを開講した。特に、旧カリキュラム生にも開放し、門戸を広げた。学部学科では、主専攻科目としてインターンシップ科目を実施した。

<行動計画内容（b）の実現度> B

インターンシップの実施状況を調査し、科目を洗い出した。

<行動計画内容（c）の実現度> A

2012年度カリキュラム改訂に従い、札幌校舎、高輪校舎の学部学科のカリキュラムに設置した。

<成果と認められる事項>

特になし。

<改善すべき事項>

関連科目の今後の開講クラス数や教員数の適正化を図る。

受入企業と大学が求める教育目標の不一致があった。大学の求める教育目標を明確化する。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

特になし。

<改善方法>

順次、教員補充を行い、開講コマ数も増加させるなど、学生の履修しやすい環境にする。実施にあたっての大学が求める教育目標が実施できる企業を選定する。

体験型学習の単位付与には、実施方法及び時間数などの問題もあることから、原案を作成し、常任教務委員会で審議する。

達成目標（3）

就職支援を強化することにより、就職率を増加させる。

目 標

就職説明会の拡大。

現状説明

〔伊勢原教学課〕

キャリア支援センターとともに、校舎別動向の分析及び地域性を把握し、学生の希望収集システムの改修を実施した。

〔代々木教学課〕

少人数校舎の利点を活かし、学生個々の希望・特性を十分に把握し、きめ細かな就職支援を実施する。

点検・評価**<行動計画内容の実現度> A**

〔伊勢原教学課〕

システム内容を検証のうえ、2011年度の説明会等の計画に利用した。

〔代々木教学課〕

代々木校舎の在籍学生数は、4年次生が66名（2011年5月1日付）と少なく、学費や生活費のためにアルバイト等で働いている者も多く、説明会を開催しても、参加者数が少なくなることも考えられたため、今年度は就職説明会を実施しなかった。一方で、少人数の利点を活かし、個々の学生との面談・電話相談等を密に実施した。

<成果と認められる事項>

〔代々木教学課〕

少人数の利点を活かし、個々の学生との面談・電話相談等を密に実施した結果、学生からも好評価を得ており、学生個々の状況や希望を十分に把握しながら、個別指導を継続した結果、就職・進路決定に寄与することができた。

<改善すべき事項>

〔伊勢原教学課〕

地域社会・企業の動向を注視し、システムを活用のうえ、より早期の対策を立案・実行する。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

特になし。

<改善方法>

〔伊勢原教学課〕

キャリア支援センター及び学科教員と定期的に早期に協議のうえ計画・立案する。また、前年度のシステムを評価し、次年度の説明会を計画する。

〔代々木教学課〕

観光学部の受け入れに際し、キャリア支援センター及び学科教員と定期的に協議の上、

次年度の説明会企画を計画・立案する。

達成目標（4）

精神的に不安定な学生をケアするために、学生相談機能を強化する。

目 標

行動計画内容（a）: 学内関連部署と連携の下、学生相談業務の充実を図る。

行動計画内容（b）: Bab News、相談対応事例集の継続刊行。

現状説明**行動計画内容（a） 具体的取り組み**

〔湘南学生支援課〕

現状把握のため、当該部署間で定期的な連絡会を開催し、情報交換を行い、早期の対応を実施した。また、相談職員を育成した。

〔清水教学課〕

精神的な問題で支援を必要とする学生の、早期発見・早期ケアのために教学課・健康推進室・学生相談室で月1回定例会を開催した。また、問題を抱える学生は体育の授業の中で発見されることも多いため、毎学期初めには体育教員とも打ち合わせを行った。ケースによっては早急に関係者（指導教員及び学科主任等）によるネットワークを構築し支援体制を整える。特に精神的に不安定な学生の支援体制では父母（家族）の役割を重要視し、ネットワークに組み入れた。

行動計画内容（b） 具体的取り組み

全体構成及び記載項目の見直しを行い、各課と協力し作成する体制を構築した。

点検・評価**<行動計画内容（a）の実現度> A**

〔湘南学生支援課〕

定期的な情報交換を開催し、各部署協力のもと対応ができた。また、相談員の充実を進めた。相談職員の育成は課員を学会や研修会に参加させることができた。

〔清水教学課〕

定期的な情報交換を開催し、各部署協力のもと対応ができ、日常的にもスムーズに連携をとる体制が整い、手当、支援を必要とする学生のサポートが早期に実行できた。

<行動計画内容（b）の実現度> A

予定では年3回の記事掲載を目標としていたが、年1回の特集号を編集することに変更し、構成及び項目の見直しを実施した。相談対応事例集の校正及び新規原稿を追加した。

<成果と認められる事項>

〔清水教学課〕

家族への丁寧できめ細かい対応の結果、父母からの感謝の言葉も多く届き、信頼度が増していると感じる。

<改善すべき事項>

清水校舎において、2010年度及び2011年度は、カウンセラー3名（火・水・木）を配置したが、学生へのきめ細かい対応からも、常駐（月～金まで）するカウンセラーが必要である。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

特になし。

<改善方法>

学生相談業務体制の構築に向け、カウンセラーの増員等を関係部署と協議する。

達成目標（5）

社会での活躍を期待し、情報教育を中心に倫理観・道徳観を育み、適切な情報管理能力を身につけさせる。

目 標

カリキュラムへの展開。

現状説明

情報科目の履修者データの集積を行い、履修者数を比較し、人気科目と不人気科目の選別を実施した。その結果に基づき、開講クラス数の検討など時間割編成に反映させた。

点検・評価

<行動計画内容の実限度> B

情報教育センター、総合情報センターの三者で打合せを行い、開講状況の調査を伝え、調査結果を時間割編成に反映した。

<成果と認められる事項>

特になし。

<改善すべき事項>

内容のレベルが高い科目は、履修人数が少なく、科目間のばらつきがあることが判明した。履修人数や履修制限を実施した科目を調査し、適正な開講クラス数とする。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

特になし。

<改善方法>

適正開講に向け、開講曜日・時限及びシラバス内容を三者で協議のうえ問題を解決する。

6-3 キャリア支援センター

達成目標（1）

キャリア教育を充実させ、インターンシップの単位化を進めるとともに、企業等の見学の機会をより多く設ける。

現状では本学独自のインターンシップ制度「東海 JOB-LEAGUE」で、学生を受け入れている企業数 60 社から各年次に受け入れていただける企業数を増やすとともに、インターンシップ実施にあたり学内での周知を図る。

目 標

行動計画内容（a）：就職委員会にて協議し、各学部理解を得る。

行動計画内容（b）：インターンシップに関する説明会の回数を 2011 年度は 3 回に増やす。

現状説明

行動計画内容（a） 具体的取り組み

年 2 回実施する学部ごとの就職委員会でインターンシップの実施について説明し、理解と協力を得られることに努めた。

行動目標の指標・達成年次に掲げた値は、3 回の実施であったが、今年度は全体説明の他に、授業や課外活動により説明会に参加できなかった学生や指定された日に選考面談に受験できない学生に対し、個別に指導や選考面談を 5 回以上実施することができた。

行動計画内容（b） 具体的取り組み

他校舎でのインターンシップ説明会の実施や外部講師によるセミナーの実施と学生の個別指導での対応を行なっている。

また、今年度からの新たな取り組みとして、インターンシップの重要性を理解させるため外部講師を招聘し、インターンシップエントリーシートの書き方セミナーや事後研修会を新たに計画・実施することができた。

さらにインターンシップ受け入れ会社数を増やすことを目的に 2 名の担当者を配置し、会社訪問を実施した結果、受け入れ会社数を 18% 増加、インターンシップに参加を希望する学生を 59% 増加させることができた。

点検・評価

<行動計画内容の実現度> S

インターンシップを他校舎からも受け付けたことや外部講師によるセミナーの実施、インターンシップ受け入れ会社の新規開拓などキメの細かい対応を行なうことができたので、実現度は「S」と自己評価できる。

<成果と認められる事項>

特記事項なし。

<改善すべき事項>

特記事項なし。

今後の改善・改革に向けた方策

＜長所の維持・伸長方法＞

学生のスケジュール（部活動・留学時期など）に配慮した実施時期の設定を考える。

＜改善方策＞

求人をいただいている企業や学生の採用実績のある企業を中心に、受け入れ会社数を現状より 20%増加を促進していく。

達成目標（2）

就職支援を強化することにより、学生の就職に対する満足度を上げる。
現状の満足度を100として各年次に満足度を向上させる。

目 標

キャリア支援課の学生対応、相談を強化するため、現状（6名）のカウンセラーの人数の増加を図る。

現状説明

キャリアカウンセリングを熊本並びに阿蘇キャンパスでも実施するため、9名の人員を増やすことが出来た。

点検・評価

<行動計画内容の実現度> A

行動目標の指標・達成年次に掲げた値のとおり本年度はキャリアカウンセラーの人数を現状より3名追加し、キメの細かい個別指導での対応を行なえた。

<成果と認められる事項>

カウンセリングの技術を有したカウンセラーによるキャリア支援と大学職員の就職支援の両面にわたり、学生の相談を行なうことにより、学生にとって働くことへの意識向上を図り、職業観や仕事観を身に付けることで、自分に適した職業のマッチングを行なうことが出来ている。

<改善すべき事項>

特記事項なし。

今後の改善・改革に向けた方策

<長所の維持・伸長方法>

キャリアカウンセラーによる相談対応とキャリア支援課スタッフによる就職斡旋を促進し、学生の希望にマッチした企業に内定させ、学生の就職率アップと満足度向上に努める。

<改善方策>

特記事項なし。

6-4 健康推進センター

達成目標

精神的に不安定な学生をケアするために、学生相談機能を強化する。

目 標

健康相談室の体制は保健師、カウンセラー、精神科医師、内科医師から成り立っており、学生の生活・修学支援には十分な体制であると認識しているが、肝心の利用者の立場からの改善を行うことが、次の段階の機能強化策として必要であるとの観点から、健康推進室（学生相談）を利用する学生の満足度調査を行い、その満足度の改善を図る。

現状説明

カウンセリングを受ける様な学生は、それ以外の一般学生とは異なるとらえ方をしている可能性があるため、カウンセリングを受けた（受けている）学生に、利用アンケートを実施した。

点検・評価**<行動計画内容の実現度> A**

アンケートを実施し、その解析結果から、当施設を利用する必要のある学生の視点からの運用の改訂を当初の予定どおりに実施できた。

<成果と認められる事項>

結果に基づいて、多目的室の利用の手引や約束事のマニュアルを作成した。

<改善すべき事項>

利用アンケートを実施した後、一部学生に対して、アンケートでは調査しきれなかった項目が発生した。抽象的質問が理解できて無い事が判明し、質問をより具体的にすることが明らかになった。

今後の改善・改革に向けた方策**<長所の維持・伸長方法>**

利用アンケートに従い、多くの学生の意見を集約し得たが、より多様な学生の意見を集約する。集約結果に基づいて、学生との約束事・利用の手引等を作成する。

<改善方策>

利用アンケートの他に、保健技術職員・精神科管理医・カウンセラー・事務でのカンファレンスを実施し、今後も改善点を模索し実行に移す。